

## 愛知県知事選結果について

みんなで創る安心の未来

私たちは、「ストップ気候危機・安心の暮らし・ジェンダー平等」をスローガンに立候補した尾形けいこを先頭に、大型プロジェクトでなく県民の暮らしにお金をかける県政への転換を願い、2月5日投票の県知事選挙を闘いました。

尾形けいこは、11月15日の立候補表明から3ヵ月経たない短期間でしたが、6人の候補者中第2位で251,263票（得票率11.68%）を獲得、健闘しましたが及びませんでした。大村秀章氏が1,452,648票（得票率67.53%）を獲得し再選されました。

12月7日愛知県内の環境を守る運動や改憲に反対する運動など、市民運動に参加する個人や、革新県政の会のメンバーが参加し、尾形けいこを代表に選挙の確認団体として「みんなで創る安心の未来」を設立しました。

尾形けいこを支援する政党も、緑の党・日本共産党が推薦、社民党・新社会党が支持、れいわ新選組山本太郎氏も推薦。尾形けいこは市民と野党の共同候補として立ち上がりました。

選挙戦での共同の活動の中で、尾形候補の「省エネで快適・安全な未来を創ろう」や、「雇用創出・経済活性化を脱炭素産業で」などの政策は、次第に納得いくものとして浸透して行き、また医療・介護・教育・保育など現場の実態や要求が、市民運動の方にも理解されていきました。また国会が開かれる中で、平和と暮らしを破壊する政府の防衛費2倍化も反対していく立場も共通のものとなっています。

市民と野党の共同候補としての尾形けいこの政策づくりと選挙運動は、愛知においては初めての市民運動と労働組合運動との共同の取り組みともなり、それぞれの願いや要求を交流しあう場となったことは貴重な成果でした。

しかし、選挙結果から見れば、このような貴重な相互理解をいわゆる無党派層と言われる人々までに広げることができなかったという力不足を率直に認めざるを得ません。

残念ながら、現職知事の4選を許しましたが、尾形けいこが選挙戦を通じて

県政に投げかけた課題は、現職知事が看過できるものではありません。一例を挙げれば、「日本一元気な愛知」を唱える大村氏に対して、尾形けいこは「脱炭素産業No1の愛知」を打ち出しましたが、気候危機に直面する愛知のこれからの産業政策として等閑視できないものです。

私たちの共同の取り組みはスタートラインに立ったばかりです。今回の活動で培った信頼を土台に、オール与党のぬるま湯の中で大村県政が誤りなきよう監視していくとともに、新たな戦前の始まりを迎えたと言われる我が国のあり方に関わる諸課題についても、微力ながらも知恵と力を出し合って、「安心の未来」実現のために、引き続きともに力を合わせていこうではありませんか。